第 1 章

住宅火災が起こる原因

1 住宅火災が起こる原因は？

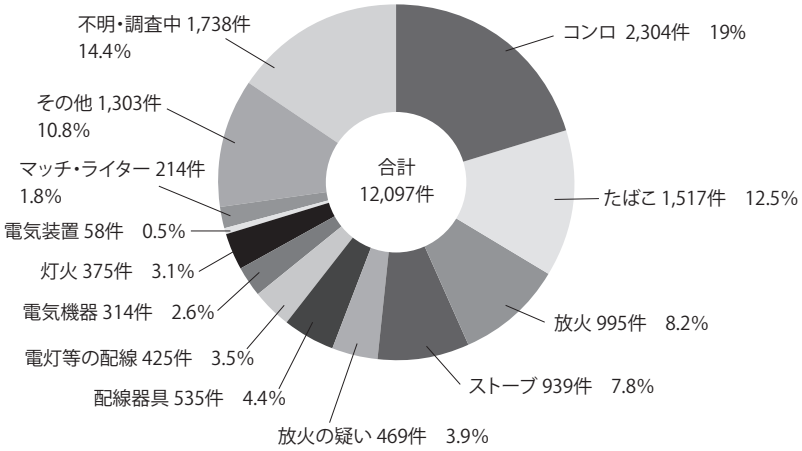
住宅火災における出火原因の現況は**図表1-1**のとおりです。平成27年中の火災原因のトップはコンロ2,304件（19%）で、第2位はたばこ1,517件（12.5%）、第3位は放火995件（8.2%）の順となっています。「放火の疑い」が469件あり、これを足すと1,464件になりますが、やはり3位のままです。住宅では、料理などを行うので、火気を用いる調理器具を使用することが多いため、その代表であるコンロによる火災が出火原因のトップになっていると考えられます。

住宅に限ることなく、建物火災全体における出火原因を見てみても、トップはコンロ3,421件（15.4%）で、第2位はたばこ2,200件（9.9%）、第3位は放火1,848件（8.3%）の順となっており、建物火災と住宅火災の出火原因は同じ傾向を示しています。これは、建物火災の半分以上が住宅火災であるためです。

一方、林野火災なども含めた「全火災」についてはどうでしょう？平成27年中に発生した火災の中で、火災原因のトップは放火4,033件（10.3%）で、次にたばこ3,638件（9.3%）、第3位がコンロ3,497件（8.9%）の順になっています（**図表1-2**参照）。

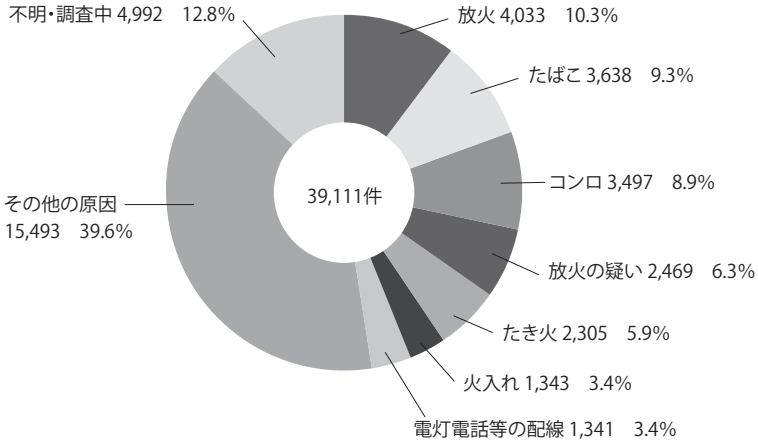
POINT

住宅火災における出火原因は「コンロ」そして「たばこ」とつづく。



出典：平成27年中：総務省消防庁調べ

図表 1-1　住宅火災の出火原因



出典：平成27年中：総務省消防庁調べ

図表 1-2　全火災の出火原因

2 火災原因はどう変化してきたのだろう

図表1-3は、林野火災なども含めた全火災の主な火災原因の推移を、昭和30年～平成26年の60年間で見たものです。平成元年までは、5年ごとに平均した値で示していますので、少しデフォルメされていることにご注意ください。

これを見ると、次のようなことがわかります。

①たばこによる火災は昭和35年頃から昭和50年代前半まではトップでしたが、昭和50年前後から減り始め、平成に入ると一時増加に転じますが、平成7年から再び減り始め、平成14年頃から急減しています。

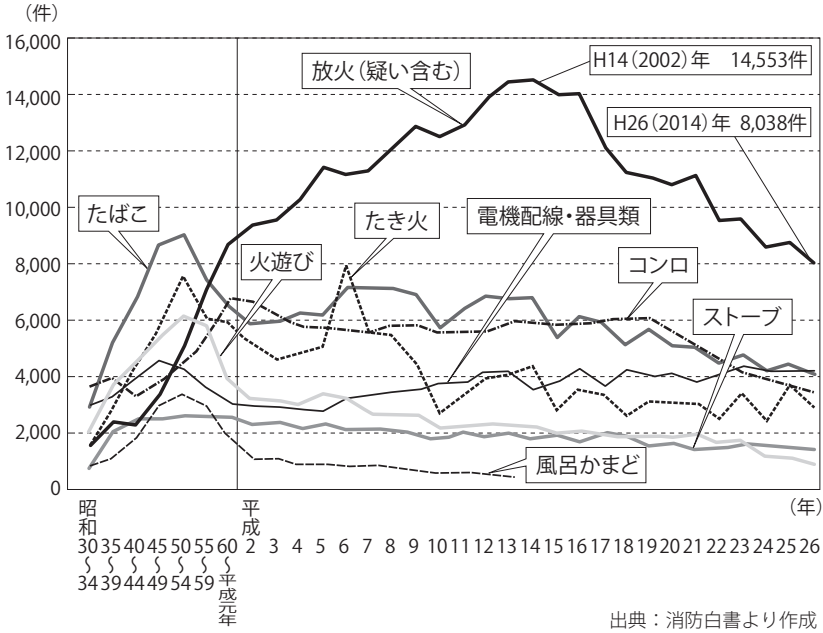
②放火（疑いを含む）は、昭和30年以降急増を続け、昭和50年代前半にトップを奪うと、現在まで圧倒的にトップを続けています。ただし、平成14年頃から急減しています。

③コンロ火災は、昭和の時代は急増しますが、平成に入ると横ばいを続けます。他の火災が減る中で一時は2位になったこともありますが、平成20年以降急減しています。

④電気火災（ここでは、**図表1-1**の火災原因のうち、配線器具、電灯等の配線、電気機器及び電気装置による火災を合計したものとしている。以下同じ）は、他の火災が減る中で平成6年以降唯一増加傾向にあります。

POINT

住宅火災の原因は年とともに変化してきている。その原因をよく知り対策をたてることが必要。



出典：消防白書より作成

図表 1-3　火災原因の推移（S30 年（1955）～H26 年（2014））

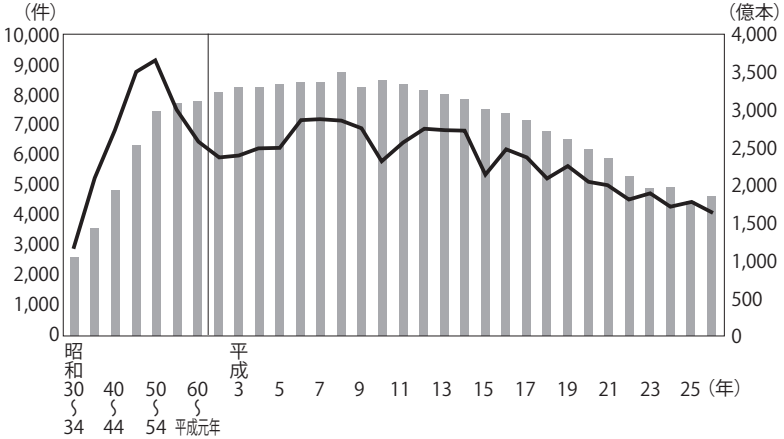
⑤ストーブ火災は長期的に減少傾向にあります。

⑥たき火、火遊び、風呂かまどによる火災も長期的に減少傾向にあります。

3 たばこの消費量とたばこ火災

たばこ火災が昭和50年前後から減り始めているのは、たばこの消費量が減ったからではないか、と考えたくなりますが、そうでもありません。

図表1-4は、火災件数の推移と紙巻きたばこの販売本数の推移を合わせて見たものです。昭和50年前後にたばこ消費量の急速な伸びは落ち着きますが、依然として増加傾向にあり、この時期にたばこ火災件数が急減したこととは一致しません。たばこの消費量が減るのは平成9年頃



出典：消防白書及び（一社）日本たばこ協会「紙巻きたばこ統計データ」より作成

図表1-4　たばこによる火災件数と紙巻きたばこの消費量の推移
昭和30年（1955）～平成26年（2014）

POINT

マナーの向上などがたばこ火災の減少につながったのでないか。